

新宮山彦ぐるーぷ第2173回

持経宿・平治宿の巡回整備と行仙岳までの奥駈道巡視

◇実施日 4月17日(日)

晴

◇参加者

平治宿ピストン； 沖崎吉信、生熊敏男、濱野兼吉、湯川一郎

畑林清子、大江加予子・徳子 7名

持経宿作業； 児島道夫

持経宿↓行仙岳； 梶野照雄、志岐敬、生熊千満子、西克 4名

計12名

昨年3月8日下北山村役場から、池郷林道入り口近くで大きな崩落があつて通行できないとの電話があつた。直後に梶野、村吉氏が崩落の現場を確認し「かなりの規模の崩れ方で、復旧までに一年以上かかるのではないか」との報告を受けた。

以後、白谷林道を経由して何回か持経宿に行ったが、国道425号の交通規制もあり、池郷林道を使うよりも40〜50分余分な時間が掛かつていた。そのため池郷林道の早急な復旧を強く願っていた。今年4月1日に「池郷林道が開通しました」と下北山村役場から電話を頂いた。あの大規模な崩落から一年と一ヶ月で再び通行可能となつた。村役場の皆さんや工事関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

午前8時30分、池原のスポーツ公園駐車場に12名が集合、5

台の車で持経宿に向かう。池原から1km足らずの復旧個所で車を止め、回復の様子を検分する。山側の20m位上から谷側の路肩迄が崩れて、生えていた木々も全て崩れ落ち、今まで見えていなかった立派な滝がよく見えるようになっていた。崩落の規模の大きさと工事の大変さが実感できた。この場所は林道ゲートの下方なので、正確には池郷林道ではなく村道になる。



持経宿に到着



平治宿に丸太を運ぶ



持経千年松

林道ゲートまでの村道も下方の2〜3kmは先の尖った小石が多く落ちていたのでゆっくりと進んだが、23分でゲートに到着、いよいよ未舗装の林道に突入する。

先日整備されたようだが相変わらずの悪路だ。ゲートからすぐの大きな崩落個所にあつた巨大な岩は片付けられて、通過する幅も倍程度に広げられていた。ゲートから2km程進んだ所で先行していた3台が路側に停まっている、梶野車がパンクしていた。3台を追い越し沖崎、児嶋の2車が先行する。ここからの路面は比較定安定し

て、落石もほとんど見当たらない。

池原から約一時間で持経宿に到着、遅れた3台も順次到着する。児嶋さんのトラックには青木君寄贈の薪ストーブと流し場改装のための食器棚、薪材5束などが積まれていて、皆で手分けして運ぶ。薪ストーブはお堂に収納した。

前鬼から入山し、昨夜持経宿に泊って、今日池郷林道を下山するという女性一名がいて、我々の活動にえらく感動してくださった。

平治宿ピストン組と行仙岳縦走組を確認して持経宿を出発する。児嶋さんは火傷した足が痛いこともあり、持経宿に残って諸作業。先行した女性陣が千年桜の祠で正月飾りや御供品の回収などを担当。



平治宿に到着

毛布干し

昨年12月12日以来の平治宿への道だ。全くの自然林で、いつ歩いてもすがすがしい気持ちの良い一時間だ。カエデやヒメシヤラも新芽が出始めて、ミツバツツジの花も咲きだしている。

この区間にも倒木は一本も無く、奥駆道は正常そのものだ。

平治宿に到着、持経宿から運んできた杭などを降ろし、11時過ぎに縦走組を見送る。5分ほどして梶野君から無線で「車のキーを渡し忘れた」と連絡があった。湯川君がキーを受け取りに登って行った。確認の甘さを反省すると共に無線機の有用性を再認識した。

11時半も近くなったので、12時15分迄作業し、その後昼食、午後1時に平治宿を出発すると決めて以下の作業に取り掛かった。

*小屋内の整理・清掃 *志納金回収 *毛布干し *雨水槽の復旧 *正月飾りの撤去 *水場径の段差補修

全員で毛布干しを最初に行う。濱野君は雨水槽の復旧にあたり小屋内の清掃や正月飾りの撤去は女性陣にお任せした。

沖崎、生熊、濱野、湯川の4名で昨年新設した水場径の段差補修を行う。杭や道具類を持ち、2名ずつ2組に分かれて工事を始める。

昨年新設した迂回路の上部で、岩が殆ど無いので杭は入りやすい。一段を5分位のペースで一組が7〜8段を施工する。40分ほどで15段を完工。あと2〜3回工事すると完了しそうだ。

杭は50本ほど在庫があるが、半割の丸太は数が少なく、残りの工区にどれくらいの数が必要になるのかの確認が大事だ。

小屋に戻って昼食を摂り、午後1時過ぎ持経宿に引き返す。

ピストン組の全員が持経宿に到着したのは午後2時半を過ぎていた。持経宿に残って作業をされた児嶋さん、お待たせしました。

児嶋さんは、現在のストーブ補修やソーラー発電のメンテナンス、今日持ってきた食器棚設置場所の採寸、それに水汲みまでやってくださった。

持経宿を離れ白谷林道を経由して行仙岳の登山口に向かう。

白谷林道も先日の業者による整備でスムーズに走行できたが、やはり多少の落石があり、5回ほど車を降りて取り除いた。落石は小さい物が殆どで、数も一個、二個程度なので55分でゲートに着き、更に10分ほどで行仙岳登山口に着いたが縦走組は下山していなかった。無線で登山口到着を連絡すると、あと10分位で下山する、と返事があり、その後4人が無事に到着した。

パンクでスペアタイヤが無くなった梶野車をここまで運転してきた生熊さんはヒヤヒヤ物だっただろう。ご苦勞様でした。

今年の一月以来の登山となった大江加予子さんも元気で不安なく完歩された。全員が揃って次週からの予定などを説明後解散した。皆さんお疲れ様でした。今後もよろしくお願いします。(記：沖崎)

行動タイム

スポーツ公園 09:30→08:56 池郷林道ゲート→09:30 持経宿 09:50→11:10 平治宿 13:00→14:15 持経宿 14:30→15:25 白谷林道ゲート→15:36 行仙岳登山口

行仙岳迄の奥駈道巡視

午前11時過ぎに平治宿を出る。歩き出して5分ほど、胸のポケットに手を当てると車のキーが入っていた。すぐに無線でキーの手渡しを忘れた、と連絡。志岐さんが「渡してきます」と降りて行った。下からは湯川君が登ってきてくれたので、5分ほどで再び歩き出した。標識の“転法輪岳30分”の通りちようど30分で転法輪岳に着く。山頂の10分手前、東側の崖に張られたロープが杭ごと

倒れていた。地面の浸食が進んで杭が倒れたのかもしれない。補修が必要だ。



転法輪岳下のロープ

転法輪岳

俱利伽羅岳

山頂でしばらく休憩、南へ少し下った所で昼食を摂る。

ここから暫くは単調な尾根が続く。

前方に俱利伽羅岳が見えだし、大きな岩が出てくると山頂に登るクサリ場だ。このルートが初めての西さんも先日の地藏岳越えを経験しているの、このクサリ場は何と言うことは無い。俱利伽羅岳の山頂でも小休止する。南側のルートは湿っているとズルズルと滑るので神経を使うところだが、今日は乾燥していて滑ることは無かった。途中で直径10cm以下の枯れた木が頭上に倒れこんでいた。2本をチェーンソーで、1本はノコで切除した。行仙岳に近づくとミツバツツジが目立ち始め、一本は奥駈道のすぐ傍で、手が届く位置で咲いていた、順調に歩いて怒田宿に着く。少し前に無線で、これから持経宿を出る、と連絡があったので捲き道を行かず山頂越えに

ルートを変更する。



倒木の切除



ミツバツツジ



行仙岳北の段差

怒田宿の標識に“行仙岳10分”と記されているので、志岐さんが時間を計ってみた。10分で到達できたのは捲き道の分岐だった。山頂まではまだ5〜6分かかるので、10分で山頂に到着できる人は相当早いスピードで歩いていることになる。

行仙岳山頂で休憩、俱利伽羅岳、転法輪岳と続く稜線がよく見えている。釈迦ヶ岳方面は雲に覆われていた。国道に向かって階段を降りる。一ヶ所が新しい物に交換されていた。無線機から“登山口に着いた”と声が聞こえた。想定していたよりも早く到着したようだ。山頂を踏まずに捲き道を通過していれば、ほぼ同時に登山口に着いたかもしれない。

(記：梶野)



取り替えられていた



国道に着く



本日の参加者

行動タイム

平治宿 11:16 ↓ 11:45 転法輪岳 ↓ 13:00 俱利伽羅岳 ↓ 14:24 怒田宿 ↓ 15:00 行仙岳 15:20 南側捲き道分岐 ↓ 16:00 行仙岳登山口